

ポーランドのきのこの瓶詰

氏家 文憲

2018年10月、ポーランドのクラクフ国立博物館本館へレオナルド・ダ・ヴィンチの名作《白貂を抱く貴婦人》(図1)を鑑賞に行きました。

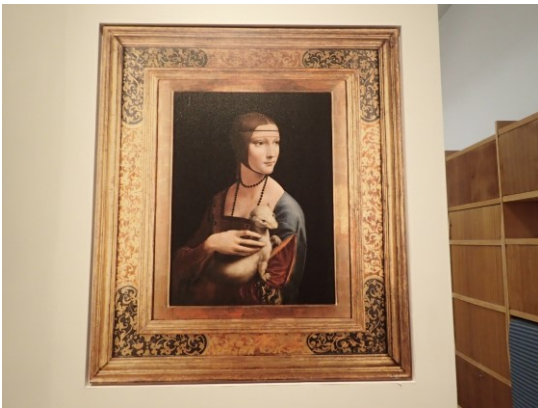


図1 白貂を抱く貴婦人

その時クラクフで宿泊したホテルから徒歩30分のハイパーマーケットULの棚に、色々な種類のきのこの瓶詰が並んでいました。ラ



図2 アカハツの瓶詰

ベルの文字をグーグル翻訳の助けを借りて読み解くと、原材料はきのこの他に、水、ビネガー、砂糖、タマネギ、ニンジン、食塩、調味料、マスタード、粒状ペッパー、ローレルの葉とあり、どうもピクルスもどきのようです。



図3 アンズタケの瓶詰

きのこの種類は、アカハツ (Rydze、図2)、アンズタケ (Kurki、図3)、ナメコ (Nameko、図4)、ナラタケ (Opieńki、図5)、ヌメリイグチ (Maślaki、図6)、フクロタケ (Słonkowe、図7)、マッシュルーム (Pieczarki)、ヤマドリタケ (Borowik、図8)、ヤマドリタケ類 (Podgrzybki) などがあり、ヌメリイグチは缶詰もありました。

価格はというと、1本が190円から1,000円ほど(1ズロチ (PLN) = 35円)、内容総量と固形量がまちまちなので、固形量100g当りに換算して価格比較を行うと、安い順から



図4 ナメコの瓶詰



図6 ヌメリイグチの瓶詰



図5 ナラタケの瓶詰



図7 フクロタケの瓶詰

マッシュルーム 57 円、ナラタケ 145 円、ナメコ 170 円、アカハツ 180 円、フクロタケ 190 円、ヌメリイグチ 190 円、アンズタケ 325 円、ヤマドリタケ 480 円となりました。栽培きのこは安く、天然きのこは高い傾向が見てとれますが、やはりヤマドリタケの人気は別格の様です。

全種類購入したくなりましたが、瓶入りで重いうえに割れる心配があり、何より味が分からないので見るだけとなりました。



図8 ヤマドリタケの瓶詰。瓶も別格、ヤマドリタケ型。